

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成27年度)

2015 年 10 月 13 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 273-0048

所在地 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号

評価機関名 NPO法人 ヒューマン・ネットワーク

認証評価機関番号

機構 06 — 163

電話番号 047-404-6300

代表者氏名 吉谷 健二

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	吉谷 健二	経営	H0306095
	②	影井 史枝	福祉	H0701064
	③	藤島 愛子	福祉	H0701065
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	かみこまつ保育園			
事業所連絡先	〒	124-0023		
	所在地	東京都葛飾区東新小岩3-14-1		
	Tel	03-3697-0170		
事業所代表者氏名	園長 大西 俊彦			
契約日	2015 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2015 年 8 月 3 日			
利用者調査結果報告日	2015 年 9 月 8 日			
自己評価の調査票配付日	2015 年 7 月 14 日			
自己評価結果報告日	2015 年 9 月 8 日			
訪問調査日	2015 年 9 月 15 日			
評価合議日	2015 年 9 月 16 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	当施設が理念として掲げ、実現したいと考えている事がどのように実現されているのか、組織運営の専門家と福祉現場を熟知した評価者が専門的立場で丁寧に確認した。評価報告書は偏りが無いように合議の上、公平・公正な評価報告書の作成に努めた。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2015 年 10 月 6 日

事業者代表者氏名 理事長 大西 俊彦

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>保育理念 1) 穏やかで安定した環境を提供する 2) 全ての子供の最善の利益を確保する 3) 家庭の健全育成をはかる 4) 地域の子育て支援を通じて社会に貢献する 5) 利用者も地域も職員も大切にする</p> <p>保育目標 1) 丈夫な体をつくる 2) 基本的生活習慣を身につける 3) 思いやりのあるやさしい心を育てる 4) 明るく夢を持ち、のびのびとした心を育てる</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>1) 保育課程の基本理念を理解し、実践できる人 2) 人権を尊重する行動規範が確立している人 3) 常に8割の力で仕事を回せる人 4) 夢と目標をもつ人 5) コミュニケーションの基本はあいさつから始まることを理解し、自ら実践できる人</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>1) 人間関係を良好に維持する能力を磨くこと 2) 研究の努力を持ち続けること 3) 他人の痛みに気付く感性を磨くこと 4) 社会の動きや時代性と自らの職務を照らし合わせることができ、変化に寛容であること 5) 自分たち以外の職業や生活環境に対する理解を深めようとする姿勢をもつこと</p>

調査対象

利用園児68名の保護者(世帯数)62名を調査対象とした。

調査方法

園より全保護者にアンケートを手渡し、回答は評価機関に直接郵送して頂いた。

利用者総数

62

共通評価項目による調査対象者数

62

共通評価項目による調査の有効回答者数

37

利用者総数に対する回答者割合(%)

59.7

利用者調査全体のコメント

総合的な感想は「大変満足」と回答された方が23名62%、「満足」と回答された方が14名38%、「満足」以上の回答は100%と極めて高い満足回答であった。保育サービスの各項目については「食事は子どもの状態に配慮された工夫がありますか」「戸外遊びの機会は十分ですか」「利用時間は柔軟対応してくれますか」「安全対策は十分とられていると思いますか」「行事日程は配慮されていると思いますか」「職員と話したり相談することが出来ますか」「保護者の考えている事を聞く姿勢は有りますか」「保育園は清潔で整理された空間だと思いますか」「職員は礼儀正しいですか」「体調の変化への対応は十分ですか」「子どもは大切にされていますか」「保育内容の説明は分かり易いですか」等の設問に対する「はい」回答が80%以上と高い満足回答であった。50%以下の項目は無かった。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	36	1	0	0
「はい」と回答された方は36名97%、「どちらともいえない」と回答された方は1名3%と極めて高い満足回答であった。自由意見としては「手作りおやつの要望」があった。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	34	2	0	1
「はい」と回答された方は34名92%、「どちらともいえない」と回答された方は2名5%と大変高い満足回答であった。自由意見は特に無かった。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	26	3	0	8
非該当に回答された8名を除くと、「はい」と回答された方は26名90%、「どちらともいえない」と回答された方は3名10%と高い満足回答であった。自由意見としては「当日でも対応して頂け感謝している」等であった。				

4. 安全対策が十分取られていると思うか	32	4	1	0
「はい」と回答された方は32名86%、「どちらともいえない」と回答された方は4名11%、「いいえ」と回答された方は1名3%であった。自由意見としては「安全対策がしっかりしている」等であった。				
5. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	31	3	3	0
「はい」と回答された方は31名84%、「どちらともいえない」と回答された方は3名8%、「いいえ」と回答された方は3名8%であった。自由意見としては「秋に行事が集中している、春に分散できないか」「土曜だけの行事だと仕事の都合で参加できない」等の要望が寄せられた。				
6. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	31	5	1	0
「はい」と回答された方は31名84%、「どちらともいえない」と回答された方は5名14%、「いいえ」と回答された方は1名3%であった。自由意見としては「お迎えの時は時間が無く先生とお話ができない」との要望が寄せられた。				
7. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	32	3	1	1
「はい」と回答された方は32名86%、「どちらともいえない」と回答された方は3名8%、「いいえ」と回答された方は1名3%であった。自由意見は特に無かった。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	1	0	0
「はい」と回答された方は36名97%、「どちらともいえない」と回答された方は1名3%と極めて高い満足回答であった。自由意見としては「掃除が行き届いていて気持ちが良い」等であった。				
9. 職員の接遇・態度は適切か	32	4	1	0
「はい」と回答された方は32名86%、「どちらともいえない」と回答された方は4名11%、「いいえ」と回答された方は1名3%であった。自由意見としては「どの先生も挨拶して下さる」「担任以外の先生も子どもの事を良く見ている」等であった。				
10. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	5	0	1
「はい」と回答された方は31名84%、「どちらともいえない」と回答された方は5名14%であった。自由意見は特に無かった。				

11. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	28	6	0	3
「はい」と回答された方は28名76%、「どちらともいえない」と回答された方は6名16%であった。自由意見は特に無かった。				
12. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	33	3	0	1
「はい」と回答された方は33名89%、「どちらともいえない」と回答された方は3名8%と高い満足回答であった。自由意見としては「先生は皆明るく優しい」「大切にしてくれる」「楽しく登園している」「子どもが園が好きで生き生きしている」等であった。				
13. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	29	4	1	3
「はい」と回答された方は29名78%、「どちらともいえない」と回答された方は4名11%、「いいえ」と回答された方は1名3%であった。自由意見とは特に無かった。				
14. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	5	0	0
「はい」と回答された方は32名86%、「どちらともいえない」と回答された方は5名14%であった。自由意見としては「きめ細やかな保育で安心して感謝している」「園便りや掲示板で保育紹介も楽しみ」「情報量をもう少し多くしてほしい」等であった。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	6	0	2
「はい」と回答された方は29名78%、「どちらともいえない」と回答された方は6名16%であった。自由意見は特に無かった。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	19	5	2	11
「はい」と回答された方は19名51%、「どちらともいえない」と回答された方は5名14%、「いいえ」と回答された方は2名5%であった。自由意見は特に無かった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリ1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		9/9
評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー1の講評

保育理念・目標を保育課程・指導計画に展開することで理解が深まる様に努めている

保育理念、保育方針、保育目標をホームページや入園のしおり、保育課程に明示し、年度初めに保育理念や保育課程を全職員で確認の上、保育課程をベースに職員が指導計画を創意・工夫を凝らし展開することで理解を深めている。保護者には入園説明会や保護者会の機会に園と家庭の役割など説明し園の保育理念や目標を理解して頂く様努めている。今後さらに、職員が保育実践を通して保育理念・目標の実践を確認し話し合う事により、より深い理解が進む様に期待したい。

職務分担表に役割を明示し保護者・職員の信頼関係の高い円滑な園運営に努めている

経営層初め全職員の階層別役割と責任を職務分担表や職種別要報告事項、マニュアル等に明記し年一回確認している。経営層の大きい役割として実行してきた事は ①10年単位の長期経営計画を作成し、継続的な園の発展計画を立案する ②昨年2月に旧園舎を建て替え耐震構造の新園舎に移転した ③園の理念や目標など価値観を全職員が共有する ④職員の採用・配置・育成 ⑤会議などを通じて職員の情報共有と円滑な園運営を図る ⑥保護者とのコミュニケーションを図り信頼関係を深める ⑦地域貢献等である。

年度編成会議、毎月の職員会議、クラス会議等職員の意見をもとに園運営をしている

経営上の重要な決定は理事会で決定される。日常の園運営に関する決定事項は、職員の意見を反映して園内の会議で決定される。次年度の担当職員体制や行事計画、重点活動項目などは職員の意見を収集した上で、年度編成会議で検討し、職員会議で発表・共有している。毎月職員会議を1～2時間開催し、各クラスから毎月の保育実践の報告をし全職員で全ての子どもや保護者の情報を共有し保育に当たっている。毎月のクラスミーティングで指導計画の反省と翌月計画を話し合い、毎日は午睡時間にクラス毎に記録しながら話し合っている。

2			カテゴリー2	
2			経営における社会的責任	
			サブカテゴリー1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		○非該当	
◎あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		○非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○非該当	
◎あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○非該当	
			サブカテゴリー2(2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		○非該当	
◎あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		○非該当	
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○非該当	
◎あり ○なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		○非該当	
◎あり ○なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		○非該当	
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		○非該当	
◎あり ○なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○非該当	

カテゴリー2の講評

保育マニュアル等に規範を示し、コミュニケーションの基本として挨拶を大切にしている

守るべき倫理等は運営規定、就業規則、保育マニュアル等に明示し、①すべての子どもの最善の利益を確保する ②平等の原則、③虐待等の禁止 ④職員の心得 ⑤あいさつチェックリスト ⑥保育士の役割等規定している。子どもの人権擁護の研修に毎年参加し、参加者が園内で受講内容の発表を行い共有している。挨拶がコミュニケーションの基本と重視して定期的にチェックリストで確認し、子ども・保護者・職員間での挨拶とコミュニケーションを大切にしている。

園運営の透明化を図り、一時保育や子育て広場など地域貢献に努めている

第三者評価受審報告書をホームページに公表し、園内ロビーにも掲示している。ホームページには事業報告書・財務報告書、利用者アンケート、苦情内容と対応状況を公開し園運営の透明化に努めている。園まつりの実施で園舎を地域に解放し、また、子育て広場や一時保育など地域子育て事業を行い地域に貢献している。地域向け専用掲示板には子育て広場の予定など園が地域に果たすべき役割と思われる事業が掲載されている。なお、地域の関係者への情報提供として広報誌の配布なども検討を望みたい。

地域関係機関と共通課題の解決に向け連携を深めている

私立保育園連盟の活動に参加し、行政との連携や保育士の育成、入園相談、保育展、就職フェアなど行っている。また、地域青少年育成地区委員を務め小中学校と連携し、中高生の職場体験の機会提供など子どもの育成に貢献している。ボランティア活動はマニュアルを整備し、プライバシーの尊重等活動日に留意事項を配布し、中高生の職場体験や大学生の保育援助ボランティアなど受け入れている。

3			カテゴリ-3	
利用者意向や地域・事業環境の把握と活用				
サブカテゴリ-1(3-1)				
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			8/8	
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる			○ 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している			○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる			○ 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる			○ 非該当
◎ あり ○ なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している			○ 非該当
カテゴリ-3の講評				
<p>子どもの権利擁護と利用者満足向上を目標として苦情解決制度を重視している</p> <p>子どもの権利擁護と利用者満足向上を目標として、利用者と保育園のコミュニケーションの活性化を目指して、要望・苦情等の解決する仕組みを入園のしおり等に明示している。苦情・要望解決体制として受付窓口や責任者を表示し、同時に、第三者委員を委託し言いにくいことなどは第三者委員に直接申し出られることを明記している。苦情・要望は迅速に対応すると同時にホームページに公表し苦情解決制度の透明化を図っている。</p> <p>様々なアンケートを行いサービス改善に努めている</p> <p>第三者評価の利用者調査の結果を職員で分析し話し合い、サービス向上に繋げている。また、行事ごとのアンケートや給食アンケート、保護者会開始時刻のアンケート、新園舎の環境問題のアンケート、遠足等の希望アンケート、クラス会での意見など保護者意見を収集・集計・分析し職員会議で話し合いサービス改善に努めている。</p> <p>業界団体活動に参加し保育事業全体の課題の解決に向けて努力している</p> <p>区の私立保育園連盟で情報収集し対策を検討している。大きい課題は①保育士不足の課題を就職フェアなど開催し新卒者への相談・説明など行う ②社会福祉法人の改革の動向として、評議員充実など運営の透明化、事業計画の公表、地域貢献など検討 ③新子育て支援制度による運営上の課題など、保育業界を取り巻く環境と課題の解決に向けて努力している。</p>				

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(000)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 年度単位の計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(0000)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	○ 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(0000)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-4の講評

保育重要課題や職員育成計画などの事業計画を策定し、年度初めに周知している
 行政の子ども・子育てビジョンに基づいて、法人の中長期経営計画を10年単位で策定している。年間計画の策定は年度事業計画編成会議を開いて職員の意見を求め検討している。人員構成・配置・採用・育成計画や重点保育の計画(新規事業の一時保育の課題、子育て広場の課題など)、環境整備計画、職員育成・研修計画、主な行事計画、年間指導計画の充実、給食の計画等となっている。今後さらに具体的に理念・保育目標の実践計画として各項目の目標・課題・計画を具体化し一層職員の理解が深まる様に期待したい。

実行面では保育者の援助に関する反省・評価を一層意識して記入することが望ましい
 事業計画の実行面は保育の質向上に関する計画は年間指導計画、月案、週案の実行・反省・評価によって行っている。月・週指導計画の評価・反省は子どもの成長の記録が中心に記載されているが、加えて保育者のねらいや援助および留意点に関する計画に対しての反省も記入することが望ましい。日誌も同様に子どもの姿の記録と同時に配慮事項に関して保育者の援助について反省・評価の記録を意識して記入することが望ましい。援助の反省記録化によって援助・配慮計画の内容が一層向上し保育者の援助力の向上に繋がると思われる。

安全な公園・遊具を確認し年齢別に公園を選定するなど事故防止に努めている
 事故防止マニュアルを作成し園内点検や公園や遊具を点検し、事故は経緯と原因を把握し反省対策を検討し防止に努めている。また、ヒヤリ・ハット記録を共有し事故防止意識を高めている。園内安全チェック表による定期点検も期待したい。侵入者対策は新園舎になりセキュリティ対策がより徹底されて実施されている。感染症は対策マニュアルに従って、手洗い・消毒、嘔吐物の処理法の徹底など周知している。災害対策は毎月避難訓練を行い、より現実味のある災害想定訓練を検討している。私立保育園連盟の防災研修に参加し事業継承計画を設定している。

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

職員のやる気向上に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリ5の講評

個人別研修計画を立て外部研修に全職員が年1回以上参加し内部で共有している

職員の育成は年度初めに自己分析シートを提出し、今年度目標の設定、個人別研修計画を策定している。目標設定に当たって保育の質に関する自己評価を17項目で確認し設定している。個人別研修計画に従って園の年間研修計画が外部研修と内部研修で月別に計画され、外部研修には年1回は全職員が参加する原則で、毎月3～6回の外部研修に参加している。外部研修参加者は内部研修にて報告し全職員で共有している。年2回幹部が全職員一人ひとり面談し、成長・努力を評価し、困った事の相談に乗りモチベーションの向上に努めている。

OJT研修という問題解決研修がチームワーク向上に極めて有効である

OJT研修というユニークな研修を行っている。OJT研修の場で年度初めに自己目標を全職員が発表・共有し、年度末に振り返り、成果と課題、次年度の重点を発表・共有している。毎月のOJT研修は現場の困っている事柄を取り上げ、話し合いで解決策を探る問題解決研修を行っている。最近取り上げた課題はマニュアルの活用・見直し、一時保育の問題点と解決策等である。また、外部研修の共有化と共に日常の仕事への取り組みとして位置づけ研修している。OJT研修は困った事を全員で解決する意識が高まりチームワーク向上に非常に有効である。

職員モチベーションの向上に配慮し働きやすい職場となっている

職員のモチベーション向上のため努力している内容は、①職員会議やOJT研修会議、行事準備会等の場で職員から活発な提案を受け、職員の自主的な創意・工夫を尊重している ②挨拶を子ども・保護者・職員間で心がけ、コミュニケーションを豊かにして信頼関係の向上に努めている ③年2回園長が職員一人ひとり面談し努力を評価している ④遅番専属の職員配置などローテーション業務負担の軽減に努めている ⑤パソコン活用により記録業務の軽減と情報共有の迅速化に努めている等である。結果として職員の定着率は高い。

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

園舎を新築し保育環境の向上や新事業での地域貢献など功績が上がっている

経営層の重要な役割として実行してきた事は①10年単位の長期経営計画を作成し、継続的な園の発展計画を立案する ②昨年2月に旧園舎を建て替え耐震構造の新園舎に移転した ③園の理念や目標など価値観を全職員が共有する ④職員の採用・配置・育成する ⑤会議などを通じて職員の情報共有と円滑な園運営を図る ⑥保護者とのコミュニケーションを図り信頼関係を深める ⑦一時保育、子育て広場など事業を拡大し地域貢献等である。

サブカテゴリー2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

ユニークなOJT研修を行い、チームワークの向上が見られる

OJT研修の場で年度初めに自己目標を全職員が発表・共有し、年度末に振り返り、成果と課題、次年度の重点を発表・共有している。毎月のOJT研修は現場の困っている事柄を取り上げ、話し合いで解決策を探る問題解決研修を行っている。最近取り上げた課題はマニュアルの活用・見直し、一時保育の問題点と解決策等である。また、外部研修の共有化と共に日常の仕事への取り組みとして位置づけ研修している。

サブカテゴリー3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

毎月の職員会議・クラス会議、毎日の話し合いで保育の質向上に努めている

毎月職員会議を1～2時間開催し、各クラスから毎月の保育実践の報告をし全職員で全ての子ども・保護者の情報を共有し保育に当たっている。毎月のクラスミーティングで指導計画の反省と翌月計画を話し合い、毎日は午睡時間にクラス毎に記録しながら話し合っている。保育の質向上に関する計画は年間指導計画、月案、週案の実行・反省・評価によって行っている。

サブカテゴリ4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

職員の育成の結果、安定した運営と新事業の努力も実り成果が上がっている

職員のモチベーション向上配慮や職員育成の研修特にOJT研修によって職員の定着率が高く安定した運営の基になっている。新園舎に移転後、新事業拡大などの努力もあり、予定以上の収入があり、経費削減運動も効果があり、財務が健全な状態を維持出来ている。

サブカテゴリ5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

利用者調査の結果や各種アンケートの意見・要望を尊重しサービス改善に努めている

利用者調査の結果を職員で分析し話し合い、サービス向上に繋げている。また、行事ごとのアンケートや給食アンケート、保護者会開始時刻のアンケート、新園舎の環境問題のアンケート、遠足等の希望アンケート、クラス会での意見等、保護者意見を収集・集計・分析し、職員会議で話し合いサービス改善に努めている。今回の利用者調査の結果は大変満足回答が多い結果となっていた。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>利用希望者が必要とする内容を工夫して情報提供をしている</p> <p>園利用の事前情報が、多くの人に広く届くようホームページやパンフレット等で情報提供をしている。ホームページには、入園できる基準や手続き、保育園の役割、保育メニュー、園の概要、保育時間、休園日、給食、子育て広場や一時保育の内容等を、分かりやすく掲載し、更新も必要に応じてこまめに行い情報発信をしている。パンフレットはコンパクトにまとめた内容であり、子育て広場や一時保育の利用者や行政の窓口で配布している。</p> <p>入園の問い合わせや見学は希望に応じ随時行っている</p> <p>見学は、希望日を優先してお勧めの9時半頃から実施している。見学者の多い時期は週に3回程度設定することもあるが、基本的には保護者の希望に応じている。パンフレットの配布や園児の遊び、活動内容等の写真ファイルの閲覧で園の特色や概要を説明し、見学は保育に支障の無いように廊下から全クラスの生活や遊びの様子、環境等を案内している。また、入園した時の様子がイメージできるように具体的に話し、質問にも丁寧に対応している。入園を検討している人には、区の入園案内を配り申し込みの仕方を説明する等知りたい内容に沿うよう努めている。</p> <p>近隣の方々との交流をとおして園の情報を広めている</p> <p>地域の中の保育園として、日頃から近所との関係性を大事にし園への理解を得よう努めている。日常的には挨拶を大事にしたコミュニケーション努めている。6月の園まつりは、近隣の人もお誘いして園児や保護者と共に参加し触れ合いを楽しんでいる。近隣住民の方々へ、日頃の協力への感謝を伝える機会でもあるが、園まつりを通して近隣の人々が保育園の存在を知る、関心を持つ、身近に感じる等、保育園を理解する機会にもなっている。</p>		
サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園のしおりの内容を充実して園と家庭が共に子育てする考え方を基本に説明している
 入園説明会は、3月上旬に嘱託医師による健康診断と併せて実施している。資料「入園のしおり」に、家庭の役割と園の役割を明示し、子どもの成長を担う「車の両輪」である基本の考えを主に説明している。又、保育の理念・目標、保育時間、警戒宣言の発令のとき、意見・要望・苦情・不満を解決する仕組み等の重要事項の説明し、個人情報、写真撮影・ホームページ掲載等に関する意向調査を行い同意に沿った対応で保護している。園の規則である運営規程の全文も入園のしおりに掲載し、園の保育事業全体を周知している。

子どもや保護者の状況や意向等を書面と面談で確認し記録している
 個別事情に関する書類を基に面談を行い、保育開始体制を整えている。書類は、入園前健康調査で発達、栄養、かかりやすい病気や症状、アレルギーやひきつけ、予防接種の状況、既往症、気になること等、問診票では、愛称や癖、食事や睡眠、保護者の勤務や通勤時間、延長保育の希望等一人ひとりの支援に必要な事項の把握をしている。その書類を基に個人面談を実施し、会話の中で子どもや保護者の状況、意向を把握し園での対応について確認をしている。個々の状況は、担任に引き継ぎ、職員会議で確認、書面でも把握できるように記録している。

環境変化による不安やストレス軽減に努めている
 園生活に慣れるための期間は約一週間程度としているが、個人差や保護者の就労等の事情を考慮し柔軟に対応している。家庭から集団生活へと環境の変化が負担にならないよう、抱く、おぶう等のスキンシップや個別対応、家庭で使用していたおしゃぶりやタオル等お気に入りの物があったら持参して貰う等、一人ひとりの子どもの状況に応じている。環境の変化や保護者と離れることへの不安で泣くことは当然である事を伝え、保護者の不安な気持ちを受けとめて、子どもの小さな変化も見逃さずに対応し保護者に伝えるよう努めている。

サブカテゴリー3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
---	-----------------	-------------------	-------

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		評点(00000)
---	--	------------------

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○ 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(00)
---	--	---------------

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(00)
---	--	---------------

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保護者会や園だより、クラスだより等で指導計画の内容を保護者に伝えている
 保育課程に基づいて、年齢別に年間指導計画、月案、週日案を作成し保育実践をしている。4月の保護者会で園長や主任保育士から保育方針等の説明を行い、クラス会では年齢に応じた目標や保育の取り組み等を具体的に伝え、保護者からは家庭での様子や意見を聞き保育に反映している。0歳から2歳児の月案には「保護者と一緒に」の項目を位置づけ、保護者との連携を大事に保育を進めている。園だよりやクラスだよりで、生活や遊びの計画や様子を写真入りで分かりやすく伝えている。

クラス内の話し合いを基に日々の振り返りを行うことが望まれる
 月案、週案の評価・反省は、担当者で話し合いで共通認識の基に行っている。毎日の保育の振り返りは、保育のねらいに沿って担当者間の意見交換の基にすることが望ましい。ねらいに対して子どもの活動は適切であったか、保育者の配慮や言葉かけの等関わり方はどうであったか、環境構成は適切であったか等、子どもと保育者の両面からの振り返りを行うことで、子どもの実態や課題が明確になり、明日の保育に活かすことができる。日々の保育の振り返りの積み重ねに期待する。

整備した記録類とセキュリティー管理で事務の簡素化と職員の共有を図っている
 保育管理ソフト導入により、保育の計画や記録等を標準化し事務の簡素化と効率性を図っている。保育日誌の個別記録は家庭との連絡帳と連動している。子どもの成長記録は成長内容の記録が5領域と連動し、気づいたことは随時具体的、客観的に記入することで成長をものなく把握している。記録をグラフにして個人面談時に活用し、バランスのとれた保育活動の検討等に活かしている。セキュリティーで管理されたパソコンから書類や記録、他クラスの様子や状況を得ることができ、情報の共有化を図っている。

サブカテゴリー5

5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎ あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	○ 非該当	
◎ あり ○ なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○ 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>個人情報利用目的の同意を得、幼児の着替えの配慮などプライバシーを尊重している 個人情報保護方針・利用目的は説明し同意書を配布回収している。写真などの掲載に関する同意・非同意を確認する他、病院・クリニックや発達センターとの情報共有等利用目的の同意を得ている。新園舎は3～5歳園児のトイレにはドアがあり、幼児の下着の着替えは男女別に着替えたり、プールの着替えもパーテーションで配慮するなど子どもの羞恥心に配慮した援助をしている。</p> <p>理念等を保育課程の養護と教育に展開し子どもの自主性を尊重した保育を行っている 保育課程の中に子ども一人ひとりを尊重した保育を位置づけしている。保育理念・方針・目標を保育課程の養護と教育5領域に展開し、年齢別に受容・自己肯定感・好奇心・子ども同士の関わり・興味・意欲・自己主張・表現・相手の気持ち理解などを掲げ、遊びの環境設定や援助内容を設定し、指導計画で具体化して子どもの主体性を尊重した保育を心掛けている。また、国柄の違い生活習慣の違いに配慮し食習慣など配慮して援助している。</p> <p>虐待防止研修に参加し会議で話し合い、保護者支援に努めている 虐待防止マニュアルを作成し、園外の子どもの権利擁護や虐待防止研修には毎年数名参加し、共有研修を行っている。職員会議で子どもの権利擁護の話し合いを行い、職員同士は自己の長所・欠点を発表・共有するなど信頼関係向上の努力の基に、クラスの保育中に相互確認をしている。家庭支援では受け入れや着替え時に確認し、気になるケースでは保護者に声を掛け、保護者と職員の信頼関係を構築し何でも相談して頂ける環境づくりに努めている。また、子ども総合センターと連携して支援に当たっている。</p>			

サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ6の講評

職員作成の保育マニュアルを再度OJT研修での見直しを期待したい

保育マニュアルは現場の職員の話し合いで作成したもので、毎年職員全員で再確認している。内容の主なものは、保育士の心構え、保育士の役割、保護者との接し方、年齢別配慮、5領域の留意点、遊び、苦情対応、感染対策等である。OJT研修でマニュアルを取り上げ、有効活用されない原因など話し合い問題点を検討している。当園は職員の創意・工夫を尊重しているので、考えの基本を提供するなど簡素で毎年確認する価値のあるマニュアルの見直しを期待したい。

新人は0歳児クラスでまず保育の喜びが体験できることを中心に育成している

新人の育成は導入研修3日間で理念・方針や社会人としてのルール、保育の倫理、個人情報保護方針など基礎を教えた後、多くの場合0歳児のクラスに配属になり3～4名の先輩職員からOJTで現場で助言を受けながら、何でも相談できる環境の中で、保育の喜びを体験できるように育てている。毎年外部の新人研修に参加しリスクマネジメントなど研修している。なお、新人育成のシステムを分かり易く表示しホームページやパンフレット等に公表することが望ましい。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		37 / 37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの心身の発達や家庭状況の変化等個別に記録し援助や対応時に活用している</p> <p>日中の保育活動や生活の中で、子どもの心身の発達や家庭環境の変化が生じた場合は即全園児共通の「はぐくむ保育」に成長記録等として記入している。併せて、毎月実施する職員会議で子どもに関する状況を報告し合い、職員全員で子どもの全体像を把握し共通理解を図っている。日中の保育や延長保育時の子どもの関わり方や援助の仕方等、職員間で確認し合い午個別対応を基本として子どもの良い所や発達を認めて、子どもの健全育成に繋がるように活用している。</p> <p>発達に即した遊具・教具の環境設定やトラブルの解決も子どもの主体性を尊重している</p> <p>室内では、発達に見合った絵本やブロック等の遊具やハサミやクレヨン、マーカー、糊やセロテープ等の教具が、取り出しやすく収納し易い場所に設置している。自分で選んだ遊具・教具で保育士や友達と好きな遊びを楽しんでいる。遊びの中で生じるトラブルは保育士が仲立ちをして、別の場所で悔しさの共感や相手の思いの代弁で気持ちが落ち着くのを待ち、解決に向けての意見を聞く、一緒に考える、提案する等を行っている。年長児のトラブルは子どもの主体性を尊重して、相手と話し合いでお互いが納得できるように保育士は支援している。</p> <p>年齢や文化の違い、配慮を必要とする子どもも友達と自然体で園生活を楽しんでいる</p> <p>3歳以上児は一室での保育を展開している他、当番活動で3歳未満児室にも行き、そこで小さな子どもと挨拶や会話などを通して関わる機会を設け、自然に子ども一人ひとりの違いに気付く場となっている。又、外国語を家庭で使う子どももいる中で、その国の料理を給食献立に取り入れ子ども同士が美味しく食べることを通してその国に親しんでいる。配慮を必要とする子どもには、保育士が関わり方を示しながら共に生活が出来るように努めているので、仲間の一人として存在を受け止め自然体で子ども同士が生活をしている。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○ 非該当

評価項目2の講評

登園時子どもの状態を保護者に確認し保育活動の配慮点として活かしている

2歳未満児は日々の連絡帳で24時間を視野に入れた子どもの状態把握を行い、3歳以上児は連絡ノートに変化のある場合は記入することで子どもの様子を確認している。他にも、登園時に早番保育士が保護者から子どもの健康状態を聞き取り、登・降園受け入れ表に記入して、担当保育士に説明して引継ぐと共に、日中子どもの変化は保育士が受け入れ表に記入して遅番保育士に確認しながら引き継いでいる。保育をするうえで、当日の子どもの心身の健康状態から個別対応する等、保護者との協力できめ細かい保育を行っている。

生活習慣の自立に向けて個人差を考慮しながら保護者との連携の基に無理なく進めている

入園のしおりで、保育目標の中に「生活習慣を身につける」掲げると共に、3歳児の年間指導計画にも「生活習慣の自立を確立する」を目標として、3歳児の終期までには排泄や着脱の自立を目指している。箸使いは4歳児頃を目安として保護者との連携の基、子どもに無理強ひすることなく丁寧に根気よく指導を繰り返す中で箸を使いこなせるようにしている。睡眠は子どもの状態を考慮して柔軟に対応し健康維持に努めている。子どもの様子は連絡帳や口頭、クラス便りや個人面談、保護者会などで話し合い共通理解を図りながら無理なく進めている。

保育中の怪我などは登・降園表に記入すると共に直接口頭で保護者に伝えている

保育中の出来事や怪我、発達の状態などは、3歳未満児は連絡帳で細かく記入している。3歳以上児は怪我や咳など変化のある時は登・降園表で延長保育士に表と合わせて口頭で伝達している。延長保育士は迎えの保護者に対して直接説明し理解を得よう努めている。引き継ぐときは確認の意味でサインをして伝達漏れがないように努めている。怪我で医師受診の場合は、事前や事後の報告を担当保育士や看護師などからお詫びと怪我の状態や部位・処置、医師からの診断内容等の説明を丁寧にしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当

評価項目3の講評

園の保育目標を各年齢の指導計画に位置付け丈夫な体作りや優しい心などを育てている

園の保育目標に、①丈夫な体を作る②基本的な生活習慣を身につける③思いやりのある優しい心を育てる④明るく夢を持ち、伸び伸びとした心を育てるを掲げている。この目標は入園のしおりに掲げ保護者に周知を図っている。目標を年齢毎の年間計画や月、日々の計画に関連づけている。丈夫な体作りでは、基本的に通年半袖・半ズボン、裸足、薄着を実践している。思いやりに関しては、身近な保育士と関わり優しく受け止めてもらう中で人への信頼感や安心感を育て、次第に他の子どもに対して優しい気持ちが育まれることを願い日々子どもと関わっている。

朝夕の時間帯で好きな仲間と遊びを選択し工夫や協力、譲り合い等で楽しく過ごしている

登園からクラス別活動の開始までの間やおやつ後、クラス内で好きな遊具や玩具・教具を選択し個別活動や好きな友達と様々な遊びを展開している。保育者は安全に配慮しながら共に遊ぶ、見守る、絵本を読むなど発達に応じた援助や関わりを行っている。子どもが出来る限り自分で遊びを決めて、誰とどう遊ぶかを判断して遊び、その中の工夫や互いが協力し合い、時には遊具の貸し借りや譲り合う中で、やり遂げた喜びを味わい、明日もまたやりたいと言う意欲や継続するための見通しなどが持てるように保育士は配慮している。

全年齢が園外活動で四季折々の自然観察や感性を培い豊かな人間性を育てている

園周辺には大小合わせて21か所の公園があり、下見をした上で危険箇所や遊具の種類からどの年齢にふさわしいかを記号で記入した一覧表を掲示している。全年齢が平均週4日程度、子どもの体調や希望を聞きながら目的地を一覧表から選択して散歩に行っている。実施する中で気付いた危険箇所や遊びの工夫等も報告し合い随時表に書き加えている。散歩では周辺の自然や小動物を観察したり、時には雨具を着ての散歩で雨の音を聞いたり水たまりを歩いて感触を楽しんでいる。雪の日は園庭や公園での雪遊びをする等で豊かな感性や人間性を育てている。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目4の講評

行事内容は日常の遊びと関連した企画で子どもの意欲的な姿を大切にしている

子どもが主となる年間行事は、園まつりやお泊り保育、運動会、ピクニック、遊戯会等を企画している。どの行事も、子どもの負担にならず少し努力することで目標達成でき、充実感や満足感が得られるような行事を目指して取り組んでいる。5歳児のお泊り保育は、保育終了後園庭が夏祭り会場となりの当てやヨーヨー釣り、金魚すくい等の後、流しソーメンを食べ入浴・睡眠、翌朝自分で作ったおにぎりを食べて帰宅している。遊戯会は、絵本からテーマを選び役決めやセリフなども自分たちで決めて、遊びの一環として楽しんでいる。

年間行事予定表を年度当初配付し保護者が見通しを持って参加できるように配慮している

4月当初の保護者会で年間行事予定表を配布し、保護者参加の所に印をつける等の工夫で見やすく参加しやすいようにしている。又、行事近くなると園便り等で子どもの様子や詳細をお知らせし当日がスムーズに迎えられるように努めている。保育参加は1か月間、個人面談は10日間実施し、その中で保護者の方が都合の良い日に参加出来るように配慮することで、高い参加率を得ている。園祭りや運動会、遊戯会、親子遠足、卒園式などは土曜日に実施し多くの方の協力を得ている。

行事を通して地域の様々な方と触れ合う機会となっている

運動会や園まつり、クリスマス会は地域の方に向けた掲示板でお知らせをする他、自治会の方に案内状を届けている。地域の方は運動会の競技参加や園まつりでの食堂コーナーで園児や保護者との食事、ロケット飛ばしや大きなシャボン玉作りの見学等で子どもと触れ合う機会となっている。地域行事として、児童館で4・5歳児の映画観賞や希望者がお化け屋敷に参加している。クリスマスでは、地域の方がサンタクロスとなり子どもたちへプレゼントを渡したりお話をしたりの交流を行い、地域の方に親しみながらマナーなども学ぶ機会となっている。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○ 非該当

評価項目5の講評

長時間保育児が安心安定して過ごせるように全職員が保育環境や関わり方に配慮している
 日中の疲れが出る夕方には、子どもの心のケアを大切にすることを職員間で話し合い、抱き留める、膝に乗せる、体を休めるマットを引いたスペースを設ける、静かに絵本を1対1で読むなど、様々な努力で安心して保護者のお迎えが待てるように努めている。イライラしたりトラブルが多い時は1対1での関わりを多くして、落ち着いて過ごせるように配慮している。又、18時15分から20時までは1歳児室に集まり、蒸し芋やおにぎり、スバゲティ、麺等の補食を食べ、静的な遊びを中心に保育士と共に安定して過ごしている。

異年齢が共に過ごす中でお互いが優しく助け合いながら過ごせるように努めている
 17時から18時15分までは0歳児は自室で過ごし、2歳児から5歳児迄が1歳児室で過ごしている。遊具等が4・5歳児向きではないので自分の部屋から好きな遊具を持参し、他の子どもにも貸すことでお互いが楽しめるように、保育士は一人ひとりの遊びの様子や感情の変化などにも配慮した保育を行っている。小さい子は年長児を憧れ模倣したり、大きい子は小さい子の面倒を見たり仲間として譲、待つ等の優しさを発揮している。保育士はトラブル等が発生した場合は出来る限り1対1で関わり、お互いが満足出来る解決に向けた援助をしている

連絡帳や朝夕の引き継ぎ表により子どもの変化等を直接保護者に伝達している
 0歳児は個別連絡帳に、保育士と家庭から子どもの健康状態や生活面などを記入し、一日を通しての子どもの様子を把握している。全年齢とも朝登園すると、保護者から子どもの状態の聴き取りと合わせて健康観察をした結果を登・降園受け入れ表に記入し、早番保育士から担当保育士に引き継いでいる。日中の子どもの生活や遊び、健康に関して変化があった場合はこの表に記入すると共に、担当保育士から遅番保育に表を引き渡す時口頭で説明をしている。遅番保育士は記入された内容を直接保護者に伝達し、サインをして伝達漏れを防いでいる。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○ 非該当

評価項目6の講評

素材の味を大切に調理と配膳の仕方等で楽しく食べられるように工夫・努力している
 全年齢とも野菜や魚などその素材の持つ味を大切に、鰹粉や昆布だし、野菜の甘みを活かした調理をしている。毎月お楽しみ会を位置づけ、季節に合わせた食材と行事要素や外国料理などの献立を作成し子どもに喜ばれている。3歳以上児の主食や副食の盛り付けは少なめにしますがそれでも多い時は自己申告制で減らしている。配膳量より多く欲しい時は、自分の食べたい量を判断してお代わりすることが基本となっている。そのことで無理に食べることはしないで済むこと、お代わりで満足感が得られることで子どもがいきいきと楽しい食事となっている。

アレルギー児対応は保護者と職員間の連携で除去・代替え食を提供している
 アレルギー児の場合は医師の診断に基づき、保護者と栄養士・主任などが面談して毎月の献立で除去や代替え食をどのように提供するかを話し合い、個別献立表を作成している。アレルギー食づくりは最終的に栄養士が確認し、配膳にきた保育士と氏名、除去・代替え食品を記入したプレートで確認しあい提供している。宗教上の要望があれば、除去・代替えでの対応が出来るように職員体制を整えている。アレルギー児の中にアナフラキシーを起こす子どもはいないが、職員間での引き渡し時は口頭に加え記録で確認するなどきめ細かい配慮を期待する。

給食計画表で年齢別食育計画やクラス食育活動を掲げて保護者にも情報提供をしている
 給食計画表には、調理年間目標や食育目標、食育年齢別計画の他、行事食とその配慮点などきめ細かい計画となっている。食育活動は、4・5歳児がプランターでトマトやキュウリを栽培して、水やりの世話や収穫をしている。1・2歳児はキャベツちぎりやドレッシングづくり、3歳以上児は皮むき、おはぎや、ケーキ作りなど食材に直接触れる機会を設けている。また、栄養指導を行い食育活動を通して実体験する機会を作っている。保護者には4月のお知らせで行事と食育活動を写真入りで紹介する他、給食便りでその都度情報提供をし理解を得ている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○ 非該当

評価項目7の講評

うす着の習慣と歩くことで丈夫な体づくりを目指している

保育目標「丈夫な体を作る」の実現に向け、開園以来うす着と散歩保育を実践している。全園児が年間を通して、室内では素足で過ごし、冬場のスモック着用の他は半そで半ズボンのうす着を基本としている。散歩は21か所のコースを年齢や目的に応じて距離や場所を選び週に2～4回程度行っている。各コースの特徴や配慮事項、遊具の状態等を写真と説明でマニュアル化し、当日はチェックシートで点検等、安全確認の基に散歩保育を実施している。体力づくりと共に、危険個所での注意や道路の歩き方を学ぶ等、園児は安全を身につける体験の場となっている。

医療機関と連携の基に子どもの心身の健康を細やかに支援している

日々、手洗いと嗽、歯磨き等、衛生面の習慣化や、温度や湿度、換気等環境に配慮し健康管理に努めている。保育中の発熱は37.5度を目途に保護者に子どもの状態を連絡して、受診時間に間に合う様に迎えを依頼する等に対応している。与薬は、定期的な依頼は医師の診断書を基に薬を預かり対応し、必要が生じた時は、病名や症状、薬の内容、与薬方法や時間、処方医師名を記入した依頼書と1回分の薬を預かり、看護師が保管管理している。服用後は記録と保護者への報告は確実に実施している。必要に応じ医療機関と連携を図り子どもの健康を支援している。

感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)の説明や情報提供で予防に努めている

年間保健計画に基づき、保護者と共に病気予防や早期発見、感染症予防等に努めている。年度当初の保護者会や便り、健康管理の配慮点、予防接種の推奨、伝染性の病気や医師の証明書が必要な感染症、生活リズムの大切さ等を伝えている。看護師は、保護者と職員に熱中症対策や感染症対策として下痢・嘔吐時の掃除と予防の徹底、感染症発生情報等を適時に周知徹底している。SIDS対策は、0歳児入園時に保護者へチラシ配布と説明による注意喚起と、園では0歳児が昼寝中はうつぶせ寝をさせない、10分間隔のチェック等で予防に努めている。

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目8の講評

保護者の事情等の変化に対応できるよう日頃から細やかに配慮している

挨拶は、コミュニケーションの基本であると職員間で認識し実践を心掛けている。日々の挨拶や、送迎時の会話、連絡ノート、個人面談等で、保護者の就労や子育て、心身の状況等の変化に気づき早めの対応に努めている。急な残業ややむを得ない事情による保育時間の変更は当日でも柔軟に対応している。入園当初の慣らし保育期間は、育児休業中で親子共にゆっくり慣らしたい人や、都合で早く通常の保育を希望する人等、一人ひとりの事情を理解して、仕事と子育ての両立ができるような支援に努めている。

園の役割と家庭の役割を確認して共に子育ての関係性を大事にしている

保護者会、クラス会、保育参加、個人面接、行事等、保護者と信頼関係が深まる機会を多くし、共に子育てする体制を整えている。クラス会は、参加しやすいように兄弟関係を考え日程を増やす、湯茶の用意等をする。保育参加は、期間に巾を持たせ都合をつけやすいようにする等の配慮で共に80%以上の参加がある。個人面談は、都合を調整し全員と実施している。参加への声かけや事前把握等で子育てへの関心を高め意見や情報交換等を深めている。保護者同士の交流は、保護者会、遠足等を設け、子どもを中心に大人同士の関係性も大事にしている。

職員の専門性を活かした保護者支援の充実に期待する

我が子の誕生日会に保護者が参加・参観する、6月の保育参加は、園での日常生活や遊びの様子を具体的に知る機会としている。月の便りやクラス・給食・保健便り等で、子育てに関する必要な情報は細やかに知らせている。今後は、園の保育士や看護師、栄養士等が子育てに関するワンポイントをアドバイスする勉強会的な取り組みに期待する。プリントでは伝えきれない子どもの発達や育児を職員から直接学べることは、育児に見通しを持ち不安感を軽減し、保護者と職員との関係性も深まる。又、職員のやる気、専門性の向上に繋がることが期待される。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○ 非該当

評価項目9の講評

子育て広場を開設し地域の子育て支援に努めている

26年度から、主に0歳から3歳の在宅親子を対象に子育て広場「きらきら」を開設している。開催日時は、火曜・水曜・木曜日の10時～15時で、毎月お楽しみ会、読み聞かせ、家庭では難しい身長や体重の測定、園内見学等を実施している。お楽しみ会は、在園児と一緒に季節の歌を歌ったりアトラクションを楽しんだりしている。ホームページや掲示版で内容の周知をしている。部屋の面積や、近隣に設置の児童会館等の条件との関係もあるが、今後、支援の意義の確認と共有、有意義な活用に向けた内容や方法、PR等、全職員での再検討が望まれる。

在宅育児家庭同士が交流できるような支援の工夫を期待する

子育て広場を利用する人が、お弁当を持参して参加が出来る他、メッセージボードの設置等、工夫や柔軟な対応で保護者同士の交流を図っている。しかし活用頻度は少なく、職員から今後の課題として参加者が増えるような企画や参加者同士の交流等、話し合いができる空間づくりを挙げている。課題解決に向けて具体的方策の検討を期待する。

一時保育事業で在宅育児家庭をサポートしている

在宅育児家庭の保護者が、買い物や通院、通学、介護等で育児が一時的に困難になった就学前の子どもを預かる一時保育を実施している。事前の登録と親子共に面接が必要であるが、保育園の持っている子育ての専門機能を、地域家庭に提供する支援を積極的に実施しサポートしている。利用者も多く、地域のニーズに即した事業の実施で期待も大きい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-2	職員のやる気向上に取り組んでいる
タイトル①	職員提案や信頼関係構築に努め、職員のモチベーション向上に繋げている	
内容①	職員会議やOJT研修会議、行事準備会等の場で職員から活発な提案を尊重し、職員の自主的な創意・工夫を引き出しやる気や新たな挑戦を大切にしている。また、挨拶をコミュニケーションの基本と位置付け信頼関係の向上に努めている。また、遅番専属の職員配置などローテーション業務負担の軽減に努め、パソコン活用により記録業務の軽減と情報共有の迅速化に努め、職員のモチベーション向上に繋げている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している
タイトル②	保育ソフト活用で事務の簡素化とセキュリティー管理を行い職員の共有を図っている	
内容②	保育管理ソフト導入により、保育の計画や記録等を標準化し事務の簡素化と効率性、管理体制を図っている。子どもの成長記録は成長内容の記録が五領域の健康、人間関係、環境、言語、表現と連動し客観的に成長をもれなく把握している。記録を活用して個人面談時にグラフにし活用し、バランスのとれた保育活動等に活かしている。保育日誌の個別記録は家庭との連絡帳と連動している。セキュリティー管理されたパソコンから書類や記録、他クラスの様子や状況を得ることで情報の共有化を図っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	園外活動で子どもの主体性を生かした遊びを展開し豊かな経験を重ねている	
内容③	全年齢を通して週4回程度の散歩を行い、子どもの健康状態や興味関心、季節を考慮して21か所の公園から選択して出かけている。0歳児は乳母車で片道15分程度、2歳児は徒歩20分、4歳以上児は40分かけて公園に行くことが定着している。公園では子どもたちが選んだボール遊びや鬼遊び等ルールも自分たちで決めて仲間と楽しんでいる。雨具を着用して雨の音を聞く、水たまりを歩き感触を楽しむ、雪あそび等子どもたちが心躍らす散歩となっている。散歩を通して感性を育むと同時に、体づくりや仲間との絆づくりなど様々な経験の場となっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新園舎に移転し保育環境が良くなり、遊びの選択の幅が広がるなど保育目標が実践し易い環境となり、保護者満足度が向上している
	内容	昨年2月に移転した新園舎は、園庭があり遊びや野菜の苗植えが出来る、また、2階のバルコニーが広くプール遊びが楽しめる。侵入者対策のセキュリティーの改善や、送迎時の玄関が広くなり会話のスペースに余裕ができた。職員数も増えローテーションが組みやすくなり、子どもの保育環境が良くなったことで、遊び場所が広がり、遊び数の種類も増え選択の幅が広がっている。一時保育や子育て広場など地域貢献の新事業も始めている。今年度の利用者アンケートでは総合満足が「大変満足」回答が62%となり利用者満足が向上している。
2	タイトル	OJT研修と題して問題解決研修を毎月実施し、全職員で話し合い課題を解決することでチームワークが向上している
	内容	OJT研修という課題解決のユニークな研修を行っている。特に年度初めに自己目標を全職員が発表・共有し、年度末には振り返り、成果と課題、次年度の重点目標を発表・共有している。毎月のOJT研修は現場の困っている事柄を取り上げ、話し合いで解決策を探る問題解決研修を行っている。最近取り上げた課題はマニュアルの活用・見直し、一時保育の問題点と解決策等である。OJT研修の場での話し合いを通じて困った事を全員で解決する意識が高まりチームワークが向上している。
3	タイトル	全職員が全園児と保護者を理解し、家庭的な雰囲気のもとに子どもの意思を尊重した保育を行っている
	内容	70名定員で各クラス12名程度である。各クラス担当職員以外にフリーの職員12名が柔軟に配置されている。小規模な園で情報共有が徹底して行われ、子どもの保育状況と保護者を全職員が理解しており、クラス担当はもとより全職員で保育を行っている意識が高い。挨拶はコミュニケーションの基本と認識し、子ども・保護者・職員間で笑顔の挨拶を交わしコミュニケーションに基づく信頼関係の向上が構築されている。家庭的環境で柔軟な小回りが利き、一人ひとりの子どもの発達に応じた援助を全職員の協力体制のもとに行っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	有効活用されていないマニュアルを職員総意で見直し、使い易マニュアルの再構築を期待したい
	内容	マニュアルは職員の話し合いで作成したものであるが見直しが不十分な項目も見られる。内容の主なものは、保育士の心構え、保育士の役割、保護者との接し方、年齢別配慮、5領域の留意点、遊び、苦情対応、感染対策等である。今年度、OJT研修でマニュアルを取り上げ、有効活用されない原因など話し合い問題点を検討している。見直しが必要なマニュアルがあり、マニュアルが膨大で活用しにくいなどの問題点をOJT研修の場で話し合い、職員総意による使いやすいマニュアル再構築を期待したい。
2	タイトル	日誌や月間・週の指導計画の反省・評価欄に保育者の援助内容に関する記録を意識することで、より援助力の向上が期待される
	内容	保育理念・方針・目標を保育課程の養護と教育5領域に展開し、年齢別に受容・自己肯定感・好奇心・子ども同士の関わり・興味・意欲・自己主張・表現・相手の気持ち理解など、遊びの環境設定や援助内容の設定で展開し、指導計画に具体化している。月間・週の指導計画や日誌の反省・評価欄には子どもの観察結果が記入されているが、保育者のねらいや援助内容に関する反省・評価の記入が少ないと思われる。反省・評価欄に子どもの観察と保育者の援助について記入で保育者の援助力がより向上すると考えられる。
3	タイトル	子育て広場事業の更なる充実に向けて検討や実施に期待する
	内容	子育て広場の開催日時は、火曜・水曜・木曜日の10時～15時で、毎月、お楽しみ会、読み聞かせ、身長や体重の測定等を実施している。地域子育てで家庭の保護者が、必要を感じた時に気軽に利用できるような開催日や内容、方法、PR等、全職員で再検討が望まれる。職員からは今後の課題として、参加者が増えるような企画や参加者同士の交流、話し合いができる空間づくり等が挙げられており、課題解決に向けた具体的方策の検討を期待する。